

MCD-6型

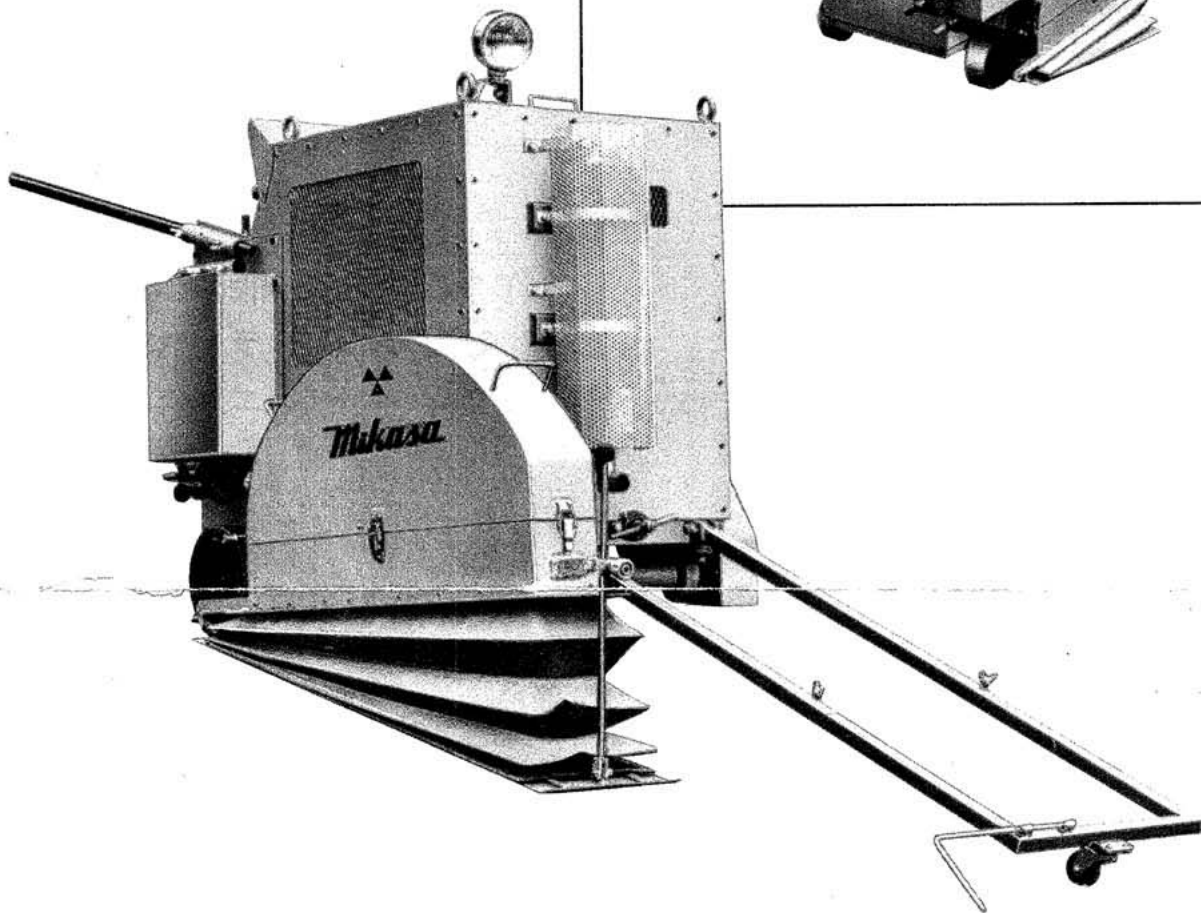
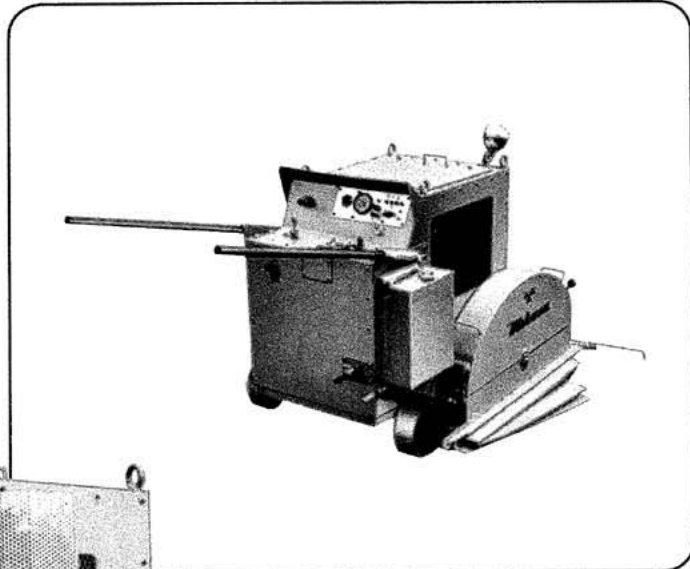
コンクリートカッター

三笠ニュース

発行所
東京都千代田区猿樂町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京(292)1411 大代表
テレックス 222~4607
郵便番号 101 番
PR句報 年4回発行

42寸のブレードをつけた強力な

自動切削・防音型の新鋭機



五月二十六日に行われた東京都三笠代理店に於いてMVC-130V型および130S型ブレードコンクリートカッター・MVC-130V型および130S型ブレードコンクリートカッター等の新製品が発表された。何れも三笠技術陣の苦心の結晶である。新製品発表会場で性能および仕様の説明と試運転が行われ、お集りになった方々から好評を博したが、なかでも防音対策が充分に施されているMCD-6型コンクリートカッターは最も注目を集めた機種ではなかろうか。

都市の交通量に伴い、コンクリートの打設、これに耐え得る強度を保持するために厚さを増しているが、これに対処するコンクリートカッターとしてMCD-5型を一年八月から発売したが、アップカッター(切上げ)の切削方式で30°のダイヤモンドブレードを付け30cmの深さまで切込むことのできる当時の最新技術を採用した性能と機能的なスタイルは注目を集めた。

しかし、増大する輸送量に道路のコンクリート舗装の厚みもこれまた増加され、これの切削作業には単に切断深さの能力を云々するばかりでなく、切削速度の向上が要求されてくるのは当然と言えは当然な結果で、限られた時間内に能率よく作業が出来る高性能のコンクリートカッターが待望された。

構造の概要

今回発表されたMCD-6型コンクリートカッターは、これらの要求に答えるべく企画されたもので、その意図するところは切断深さの増加をはじめ切削の自動化ならびにスピードアップと騒音対策である。

切断深さは42(1067mm)のダイヤモンドブレードを付けると最大45cmまで切込むことができる。実用上は直径の小さいダイヤモンドブレードで切削方向の曲りを修正しながら真直ぐに15cm程の深さに切込んで行き、順次切込み深さを25cm・35cmと深くして行く方法が採られている。この切込み深さを調節するためのブレードの昇降装置には、直流モーターで駆動される油圧ポンプが使われている。これはバッテリーを電源とした小型軽量の油圧パワーユニットで、モーター・ポンプの他にオイルタンク・安全弁・逆止弁等が組込まれている。操作バルブに軽く手を触れるだけでダイヤモンドブレードは静かに下降を始める。上昇させるにはレバーを押すと急速と言うよりは瞬時にブレードが上昇するので、障害物に当たった時には素早くこれを避け、ダイヤモンドチップの損傷を減らすことができる等使い方に依ってはブレードの保護と長持ちをさせることは可能である。また、ダイヤモンドブレードの冷却方式は、MCD-3型で実績のある遠心注水式なので、ブレードの大小に拘らず充分な注水ができる。

エンジンには富士重工製のロビンE W140DL型水冷4サイクル水平対向頭上弁式で三六〇回転で最大出力37PSを発生するガソリンエンジンを搭載している。これはスバルレジオネのエンジンとして開発されたものを、産業機械の動力源としてオールスピードガバナを装着する等の改造が加えられ、低回転から高速回転まで安定した性能を発揮する。

音、音が静かで振動の少ない、まさにコンクリートカッターにはうってつけのエンジンである。騒音の対策には特に注意が払われ、通常装備されるマフラーの他に、更に一段の大型マフラーが装着され、エンジンをはじめとして全体をボクネットとしてスポンジと覆ってあるのも、もともと静かな水冷エンジンの運転音がより一層静寂なものとなった。また耳障りな切削音を防ぐためには三笠のバテントになるところのジャバラ式の消音カバーがブレードカバーに取付けられてダイヤモンドブレードを完全に覆って、路面の起伏に応じてスライドし、カン高い切削音はジャバラ内で反射減殺されて柔らげられ、市街地での作業も騒音公害で迷惑を掛けることが少なくなった。

走行のメカはMCD-6型コンクリートカッターでは三つの機能を持たせている。

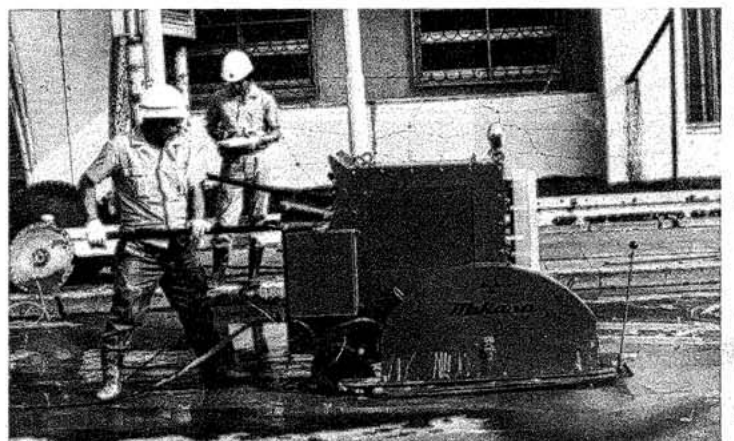
切削作業中はエンジンのドライブシャフトからメインの電磁クラッチを介してVベルトで無段変速機を回し、ここからチェーンでウォーム減速機に入って減速される。デフを経て駆動車輪に伝達しているのが第一のパワーラインであるが、無段変速機とウォーム減速機を結ぶチェーンの中間には前進用と後進用としてそれぞれ電磁クラッチが設けられている。切削速度は無段変速機に依り0から毎時130mの範囲で作業内容に応じ任意に選ぶことができる。

次に切削作業現場までの移動走行の場合には、無段変速機を使わずに直接にメインの電磁クラッチから前進・後進の電磁クラッチを経て動力をデフから車輪に伝えている。

この他エンジン停止中の移動ならびに切削位置を決めるための微量調整でカッターを動かすには手動のハンドレが設けられ、チェーンドライブでデフ・ギヤを回すようになっている。

これらの操作のためのレバー・バルブ・ハンドル等は機体後方に集められ、回転計・水温計・ウォーニングランプ等と共にパネルに機能的に配置され、すべての運転操作は後方から切削方向を確かめながら適切に行うことができる。

切削方向を保つためのガイドはスライドして伸縮させることができるので、運搬・移動等の場合には縮めて折り畳めるので大変に使い易い、またブレードカバーも容易に取り外

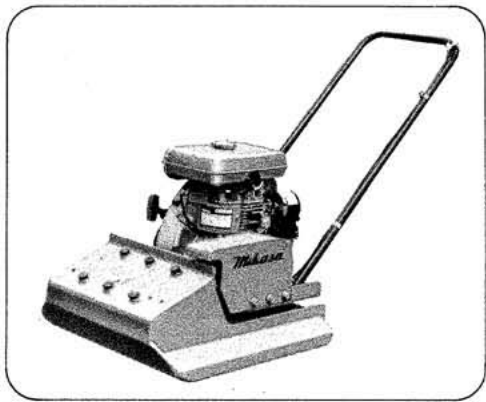


(最大切断深さまでブレードを切り込んで作業中のMCD-6型コンクリートカッター)

MCD-6型の仕様

使用ブレードの寸法	最大切断深さ	切削速度	ブレード軸受	切断深度調節装置	冷却装置	寸法・重量	使用エンジン
12" (303%)	80%	0~130m/h	27% (1 1/8")	油圧方式	重力注水式	高 1,310mm	富士重工 EW-140DL 水冷4サイクル 水平対向4気筒 燃料タンク容量 18ℓ 最大出力 37PS/3,600 r.p.m.
14" (356%)	100%					幅 1,018mm	
18" (457%)	150%					長 1,644mm	
22" (559%)	200%					(切削ガイドハンド) (ル含まず)	
26" (660%)	250%					総重量 550kg	
30" (762%)	300%						
34" (864%)	350%						
36" (914%)	375%						
38" (965%)	400%						
42" (1067%)	450%						

遠心力と輾圧速度を変えられる MVC II 130 V型・130 S型 プレートコンパクター登場



三笠のプレートコンパクターのシリーズに、またも強力なニューフェイスが登場し、MVC II 52 F型の軽量タイプからMVC II 300 D型の重量級に至る三笠のコンパクターの陣容が更に充実されて、MVC II 130 V型のV型とS型の二つの種類が加わることになった。

S型は普通の一軸偏心式の高周波振動を発生する起振装置が装着されているが、V型に於いては、この一軸偏心振子の偏心量をカム機構を用いて切換ノブで変えることができる。我が社独自の起振装置(実用新案申請中)が取り付けられている。

この起振装置は振子の遠心力が二段階に変わるので、同じ回転数を保ちながら締固めの走行速度を高速と低速に変速させることのできるユニークな機構である。

軟弱な地盤を締固めるときスピードが遅いと輾圧盤が埋まったりして作業がやりづらいので、ノブを高速側に切換えて二八〇kgの遠心力、毎分30mの走行速度で素早く締固めることができる。

低速に変速させることのできるユニークな機構である。



散水装置と移動車を取付けた130 V型(写真上) 右上は130 S型

	MVC-130V型	MVC-130S型
機体の寸法 (ハンドルを含む)	長さ 1,360mm 高さ 700mm	—
輾圧盤寸法	640×520mm	—
振動数	4,600VPM	—
速度(毎分)	高速 30m 低速 18m	なし
登坂能力	25°	—
輾圧力	7~9ton	—
エンジン	EY18-3DC 5PS4サイクル	—
概重量	125kg	120kg

部には入らないように設計されている。ベルトの損耗が少なく、ベルトカバーは3.2mmの鋼板で造られ輾圧盤に良くマッチした形状で本体右側面をすっきりとまとめ上げている。

本体の後方には輾圧盤の幅より内側にハンドルが取り付けられているので、張出した壁の下まで余すところなく締固められる。このハンドルは通常の作業位置からほぼ直立の位置までの範囲で動かすことができ、狭い作業場所での方向転換や格納、または運搬の際に場所をとらないよう配慮されている。

このMVC II 130 V型とS型には姉妹機MVC II 70 F型ならびに90 F型に使用されて定評のあるEY18 II 3 DC型空冷4サイクルガソリンエンジンが搭載されている。

四〇〇回転に於いて5PSの最大出力、三二〇〇回転に於いて9.2mの最大トルクを発生する性能を有するものである。

アスファルトの仕上げに欠くことのできない散水装置や移動車・吊上げ用のフック等がオプションとして用意され一層使い易くなっている。

このMCD II 2 D型を更に扱い易くした性能も向上させるため、従前より作業経験を基にお寄せ頂いたご意見を参考に再度のマイナーチェンジを施しました。

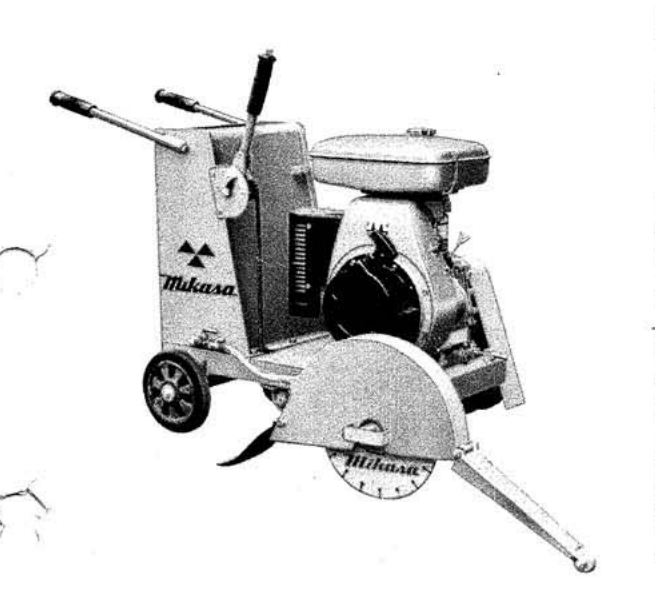
最も大きな設計変更が実施されたのは切削関係と注水関係で、従来はMCD II 2 D型に取付けられるダイヤモンドブレードの最大径は12"まででした。これをブレードカバーを大きくし、カウンター軸の寸法を部分変更して14"のダイヤモンドブレードを取付けて、12cmの深さまで切込むことができるようになりました。従って今後は10"・12"・14"と三種のダイヤモンドブレードを使用できます。

昨年十一月に搭載エンジンの起動方式がロープスタート式からリコイルスターター式に改良されたので、これに伴い新型のロビンEY33 II 2 D型を使用することとなり、その取付寸法や、カッター本体の設計変更もあってMCD II 2 B型から2 D型と型式も改められました。新しくして新しいコンクリートカッターとして生まれ変わったことは本年一月の三笠ニュース第60号でお伝え致しました。

セブローラーのベトナムで昭和四十七年に登場以来国内はもとより、広く海外に於いても、ご愛用頂いているMDR II 7型ダブルバイブレーションローラーに、この程ディゼルエンジンを付けた、ニューモデルを7月から市場に出すことになりました。

ディゼルエンジンを付けたセブローラーの型式はMDR II 7 D型と呼べ、従来のガソリンエンジン付は7 G型として区別されることとなります。

7 D型に搭載されるディゼルエンジンは、かつてNM II 6型で二二〇〇回転に於いて6PSの最大出力を発生する水冷4サイクル式で、ナイロラーM DR II 9 D型に使用されているディゼルエンジンからN M 85 II 31 A型と同系列のエンジンです。



水タンクとブレードカバーが改良されたMCD-2D型

	MCD-2D型
型式	1270mm
全長	500mm
全高	930mm
重量	118kg
ブレードの寸法	245mm(10") 305mm(12") 356mm(14")
最大切削深さ	70~120mm
切削速度	40~70cm/min (深さ50mmの場合)
ブレード軸径	27mm(1 1/16")
調節装置	手動方式 切削深度上下調節 約130mm
冷却方式	重力注水式 水タンク容量36ℓ
エンジン	ロビンEY33-2D リコイルスターター付 最大出力 8PS/3600r.p.m

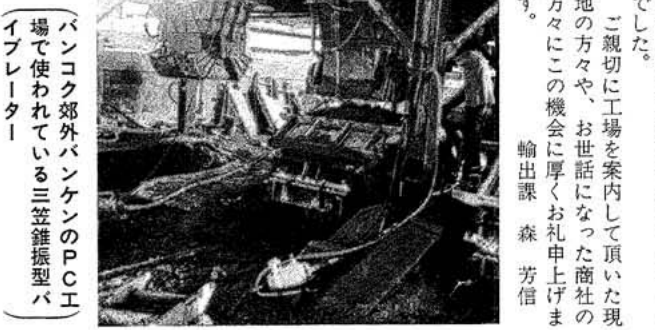
ブレードカバーが改良されたMCD II 2 D型

先端に小さな車輪が付いたラインゲージが、ブレードカバーの先端にブレードを先導するような形で取付けられ、正面から見ると幅広のゲージがちょうどブレードを覆ったよう

になって、安全面を考慮した設計がとられ、またブレードを締付けるナットが露出しないようブレードカバーの側面にガードが設けられ、事故防止を計っています。

14"のダイヤモンドブレード取付けに伴い、ブレード取付けのフランジの内側にブレードの穴位置に合わせてピンを設け、ブレードの取付けを確実にして切削中のブレードのスリ

に引き立てることになりました。



水タンクとブレードカバーが改良されたMCD-2D型

これらの改良が加えられたMCD II 2 D型コンクリートカッターには、前述のとおり三六〇〇回転に於いて最大出力8PSのロビンEY33 II 2 D型空冷4サイクルガソリンエンジンを使用しています。

このエンジンは始動ロープが巻込

次から次へと流れてくるセグメントを造るのに、女性も男子と一緒に一生懸命働いていた。

この工場では三笠のモーター式の雑振型バイブレーターを使って、トンネル内に使うセグメントの製造が行われていた。

海外寸描

パンコク郊外パンケンのPC工場で使われている三笠雑振型バイブレーター

第二十一回東部地区

三笠代理店会開催

東部地区三笠代理店会は、第二十一回を迎え、去る五月二十六日、二十七日の両日、熱海・金城館に於いて、北海道、関東、甲信越、東海、そして沖縄から代理店四十二社、輸出商社十三社、報道関係八社の参加を得て華々しく開催された。

二十六日午前十一時、東京駅「銀の鈴」下に集合した一行は、新幹線「こだま号」に分乗、車窓に新緑の映える五月晴れの空の下、一路熱海へと向った。

熱海駅では出迎いの三笠社員等の案内で一行はハイヤーに分乗、金城館に到着、同館九階の「サロンド」にて昼食。

午後二時、第一部の新製品発表実演説明会が、同館前の特設会場で始まった。吉田常務の説明により、十一機種の新製品が順次紹介され、技術部員達による実演が行われた。参加代理店の方々は、初夏の強い日差しの中で熱心に見学され、質問される御様子にも本年度の新製品に対して深い印象を得られたように窺われた。

本年度の主な新製品は、両輪振動、両輪駆動、両輪ステアリング、振動数を変えずに振幅を変えられる、という四つの特徴を持つ、2トンクラスの特大型ダブルバイブレーション。



(新製品に見入る代理店の方々)

続いて午後三時半より、金城館会議場に於いて第二部の代理店会が開催された。先ず京谷社長より代理店各位の日頃のご支援に対し深甚なる謝意を表すると共に、「本年は政府の思い切った公共事業を主とした大型予算が急遽議會を通過致しましたので、従来の道路、下水道、住宅などの生活関連整備事業ばかりに限らず、永らく抑制されていた、新幹線、高速自動車道、本四架橋などの大型工事、本格的に進められ、早くもその兆しが、ぼつぼつと出始めたようです。今年こそは大いに期待したいので、今年こそは思い切った接点で、三年間にわたる三笠製品の第四次拡張運動に、優秀なる成績を挙げられた代理店各位に対し、そのご功績とご努力にお報いして、感謝状と記念品が贈呈された。続いて営業関係と京谷常務、技術関係を吉田常務と質疑応答に入り活発な討議が行われた。



第三部の懇親会は同旅館、寿宴会場にて午後六時より行われた。その日海外の出張先より帰国された、代理店会に駆け付けて下さった東京の吉沢原動機、吉沢社長より、代理店を代表しての御挨拶で、お心の籠ったお祝辞を賜った後、住友商事の川本副部長の音頭で乾杯して懇親会の幕を開いた。

湯の街、熱海の夜は、各地より集まった三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

第三部の懇親会は同旅館、寿宴会場にて午後六時より行われた。その日海外の出張先より帰国された、代理店会に駆け付けて下さった東京の吉沢原動機、吉沢社長より、代理店を代表しての御挨拶で、お心の籠ったお祝辞を賜った後、住友商事の川本副部長の音頭で乾杯して懇親会の幕を開いた。

湯の街、熱海の夜は、各地より集まった三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

三笠の友の談笑が湯気、杯を重ねることに賑やかに、心と心の融け合いは更に行程に駆け合せて、楽しい語らいの輪に時の経つのも忘れられた。

——藤村治久記——

ニューギニアの現状

フリー、の仕事を終り、三月九日、夜行PR二八三便にて次の訪問国ニューギニアに向かった。フリーは、ニューギニアから約五時間半位で飛べる。深夜の飛行は、乗客も少なく、日本人は勿論私だけだ。他はニューギニア人、ヨーロッパ人と総数五十名位だったが、後部席に荷物が積込まれているのが機内では横にもなれず、うつらうつらしている間にやがて朝もやに煙るニューギニアの国際空港、ポートモレスビー空港が見えてきた。地肌が見える山の中にあちこちから立ち昇る薄青い煙も見え、きつと朝食の仕度でもしているであろうと、自分の空腹に併せて空想している間に、機は誘導路に静止し、やがてタラップに立った時、機内とはうって変わって、ジーンと汗ばむ様な外気が、二度目の私の訪問を待っていた。早朝の海空は港付近には人影もまばらで、通常見られるような出迎いの華やかさは全く感じられなかった。今回は、次の訪問国、オーストラリアへのお土産として、税関でこれらをボンドしななければならない。ちよと時間が掛かったが、関係商社の方のあたかい出迎えを受けてひとまずホテルへと向かった。

三月だというのに、クーラーの効いた車内は非常に快く、これから一週間の滞在期間に於けるスケジュールの打ち合わせを行い、今回出掛けるラバウル、キエタ両市の状況について話し合った。途中ホテルに停まる道路、及び主要道路は完全舗装されているが、快速なドライブが楽しめる。これらの道路は以前オーストラリア政府に依って完全整備されたという。

又、木蔭の辺りには朝市があらわに開かれ、それぞれ自分のところで採れた野菜、果物などを持ち寄り、わけのわからない言葉と手真似で取引している。取引の仕方などは現地で通じる。取引の仕方が物々交換であるようだ。そして商売が成立するとお互いに酒の代わりになる木の葉を食べて、口中真赤になり、大きな口を開けて笑っている。真黒な顔に真赤な大きな口、初めてこの光景を見た人なら多分逃げたしまうかもしれない。しかし、ニューギニアの人とい、酒類を飲まない限り全く、性格の異なる人種であると感じ、安心したのは事実である。

ポートモレスビーに二日間滞在した後、ニューギニア島のラバウルに向けて出発した。富士山より高いオリエンスラン山脈を越えて、内線のフレンドシップ橋は、悪気流で下下、左右に揺れながら約二時間かけてラバウル空港の上空にさしかかった。初めて見るラバウルの町は、椰子の木蔭に見えかくれ海の青さとそのコントラストは何とも言えない景観で、既に死火山とも言われている空港近くの赤褐色の山肌の間を縫う様に着陸した。太平洋戦争の傷跡も生々しく残るラバウルの町のいたるところに、旧日本軍の使った大砲とか、上陸用舟艇の残骸がそのままにされており、戦争の悲惨さを今も残している。

先頃、日本の遺骨収集団がこの地を訪ねた時、涙ながらにラバウル小唄や軍歌を合唱したと聞いたが、戦争経験の無い私も、これらの戦跡地で合掌することも度々であった。この戦跡での犠牲者は、三十五万ある以上と言われているが、多量な人々の多くは、熱帯の病気がマラリアであり、飢えによるものであると聞いている。実際、仕事の合間にジャングルの中に入ってみると、未だかつて草に覆われた旧日本軍の一式陸上攻撃機の残骸が、当時をしのばせて生々しく横たわっている。一寸でも立止まれば、すぐ蚊に刺され、恐ろしいマラリアにかかる事を覚悟で私はカメラのシャッターを切った。悪い事に半袖シャツであったが、首、腕、といたる所に蚊の攻撃を受け、心中は穏やかでなかった。この予防薬というものは、キエタが主体で、長期に亘って服用しないと、その効目が無いと言われ、又あまり続けると胃腸障害を起こすと(ラバウルのジャングルに横たわ)る旧日本軍機の前にて筆者)



(ラバウルの海岸には今だに大戦中の船の残骸がある)

握手している手を強く握り返して、言葉こそ通じないが、皆ニコニコと笑顔になり、私が写真を撮ろうとした時、又機械を操作し始め、こんな遠い国、そして小さな島で自分の売り込んだ機械が使われているのかと思うと、感激と共に新たなファイトが沸き上がってきた。いっぺんに旅の疲れもふっとんでしまった。翌日、市役所、ユーザーを訪問し、お世話になった地元ディーラーの方に再訪を約束し夕方の便で再びポートモレスビーに向かった。

昨年の九月、初めてニューギニアの地に足を踏み入れてより、この国と日本は、戦争を通じて特に身近にあり、又、近き将来には、ニューギニアの自然も開発される運命にある事は明らかであるが、オーストラリア領より独立して二年目を迎えたばかりのこの国は、西欧文化の影響をまともに受けながらも、急変する事は難しく、一歩一歩前進してゆくように思えた。

末筆ながら、この度の出張で大変御世話になった商社の方、そして現地ディーラーの方々に紙面をかりて厚く御礼申し上げます。

輸出課 徳永記

(キエタの道路補修現場で活躍するMDR19型ローラー)



(キエタの道路補修現場で活躍するMDR19型ローラー)

日本建設機械化協会主催の建設機械展示会「札幌展」開催さる

北国北海道の雪溶けと共に、工事シーズン幕明けを告げるように昭和五十三年建設機械展示会が四月二十日より五日間の日程で、雪なお残る藻岩山の麓、札幌市南区川沿町四三〇号(国道二条二丁目)の三〇号線沿)の特設会場で、日本建設機械化協会主催、北海道開発局をはじめ関係官公庁団体等の後援により華々しく開催された。

前回札幌で開催されたのは、日本経済が高度成長の絶頂期であった昭和四十八年のことであり、その後の石油ショック、インフレ等の不況下を通り、本年度は、政府の景気刺激政策に依り、昨年度の三〇%増の公共工事予算がつき景気上向きの中、ここに五年ぶりに開催される運びとなった。

今回は、四十七社が参加、出品機械約四百五十機種を展示し、又、会場内では「新しい建設技術写真展」と「新しい工事の決定記録映画」などが紹介されていた。

開催期間中には、地下鉄真駒内駅より無料バスが会場まで運転され、全道各地より約一万五千名の方が来場された。

我が三笠産業は、会場内中央部に展示小間を設け、五十二年最新製品であるMVC11HF型高周波型自振モーター、MVP13L型フレキシブル水中ポンプ(軽量型)、MCD22D型コンクリートカッター、MVC300型プレートコンパクター(前後進自在型)を始めとし、従来から御愛用頂いているコンクリートブレイカー、タンピングランマー、ブレイトコンパクター、コンクリートカッター、振動ローラー等の各種を出品した。又今回が初の発表となったMDR7D型振動ローラー(ディーゼルエンジン搭載型)を、本年度は、



我が三笠産業は、会場内中央部に展示小間を設け、五十二年最新製品であるMVC11HF型高周波型自振モーター、MVP13L型フレキシブル水中ポンプ(軽量型)、MCD22D型コンクリートカッター、MVC300型プレートコンパクター(前後進自在型)を始めとし、従来から御愛用頂いているコンクリートブレイカー、タンピングランマー、ブレイトコンパクター、コンクリートカッター、振動ローラー等の各種を出品した。又今回が初の発表となったMDR7D型振動ローラー(ディーゼルエンジン搭載型)を、本年度は、

MVC11HF型プレートコンパクター(振動可変式)MCD22D型コンクリートカッター等も展示され、三笠全製品の展示となり、広い小間も狭く感じられ、来場された方々には、多種類に渡る豊富な機種を一堂に見たり手にして扱ってみることが出来、より一層深く三笠製品を御理解頂いて、お客様の注目を集めたものは、実(全製品を展示した三笠の小間)は、

演機種が中心となり、ボールハンマー、アースオーガー等は、最近のガトリーカッター等も展示され、三笠全製品の展示となり、広い小間も狭く感じられ、来場された方々には、多種類に渡る豊富な機種を一堂に見たり手にして扱ってみることが出来、より一層深く三笠製品を御理解頂いて、お客様の注目を集めたものは、実(全製品を展示した三笠の小間)は、

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

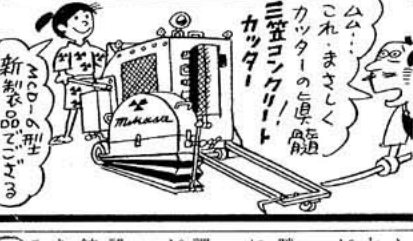
浅田記

浅田記

浅田記

浅田記

浅田記



中道機械産業(株)首都圏の販売網強化 東京・神奈川・千葉・茨城に営業所増設

三笠の有力な代理店である中道機械産業(株)「中道喜治社長」に、本年初夏の頃より主に首都圏に目標を置いて営業所を新たに開設された。只今までのところ、相模・東京・土浦・城西の四つの営業所が業務を開始している。六月一日(日)に千葉県柏市にオープンした東葛営業所では、開所を記念した展示即売会を六月二十三日(金)・二十四日(土)の両日、同所前の広場に於いて賑々しく、三笠産品からはランナー・パイプレーター



・プレートコンパクターの主力商品をはじめとした三笠の新鋭機をずらりと展示して週末を利用してご来場。今回設置された各営業所は、何れも東京のベッドタウンとしての開発が盛んに行われている場所であり、交通網の整備と共に今後ますます開発が進んで行くであろうことは誰の目にも明らかである。その意味で新営業所の前途は洋々たるものがあると言えよう。終りに各営業所の所在地を記しご発展を祈ります。——小笠原一

相模営業所 神奈川県相模原市横山二一六四
西野ビル
東葛営業所 千葉県柏市呼塚新田一六一
土浦営業所 茨城県土浦市荒川沖一三二一
城西営業所 東京都渋谷区幡ヶ谷三三三七一八



京谷社長ご夫妻金婚式 及び社長喜寿祝賀会

去る六月三日、絶好の晴天に恵まれた土曜の昼下がり、京谷社長ご夫妻の金婚式及び社長の喜寿祝賀会と兼ねた祝賀会が横浜山下町の中華街の「白雲天」に於いて内輪だけの集まりで取行なわれた。

当日は京谷社長のご家族や近親の方々に我々三笠産業の本社と技術研究所の課長以上の社員がお招きをうけ、お祝いを申し上げた。

最初に出席者一同を代表して館林工場的小林工場長が「京谷社長ご夫妻の金婚式、京谷社長の喜寿の祝賀会にお招きいただき心からお祝い申し上げます。結婚五十周年の長きの間、ご健康で、ご夫妻お揃いになり、琴瑟相和されて今日の三笠産業を築きになされたことに、ある限りの敬意を表するものであります。今後共ご健康に留意されまして、益々お元気での上は米寿のお祝い、白寿のお祝いをしにいたして、京谷社長ご夫妻の長きにわたるご活躍、ご功績をたたえ、今後とも三笠産業の発展に力を尽くしてまいります。」と祝辞を述べた後、京谷社長が席を立たれ、「今から五十年前の昭和初期は大変な不況で、結婚したからと言って今日の如く、やれ新婚旅行等といった気分は全くなく、給料は減り、賞与は全くもらえず、しかし一つは景気がよくなると思いつつ、せつと働き、家内の方は家計のやりくりで大変でした。それから三笠へはいり、会社が苦しい時はいつも家内が力強く助けてくれ、事業がうまくいかず、暫く実家へ満足で、頑健、要領として仕事



昭和五十二年 販売コンクール 西販課初の優勝獲得

をしのぐ感があり、まさしく長寿の意義を完うしておいでになり、ご長命の方々は斯の如くあつて頂きたいと存じ、心から今日のお慶びをお祝い申し上げますと共に、益々ご健康でこの上とも長寿をかされなれまして、我々三笠産業のために長生米寿、白寿のお祝いにも是非今日のお招きを受けた一同うちそろってお祝い申し上げます。——炭記



技術教室 第14回

モーターインヘッドパイプレーター(インヘッド)の50型を使用する場合の延長コードの長さとの太さの関係について教えて下さい。

横浜市の風間さんの御質問にお答え致します。

パイプレーターをモーター式で使用した場合に於ける、電圧低下等についての計算式や理論上の問題は、三笠ニュース第56号の技術教室で実例を上げて御説明しましたので、今回の御質問に対しては面談や計算を省略して、現場の方でも其の場で簡単にわかるように表とグラフを使って御説明致します。

先ず電源より、周波数変換機までの入力電源のケーブルタイプとコードの長さ(m)の関係を表1で示します。

型 式	コードの太さ(mm ²)	コードの長さ(m)
FC-2型 (200V、12A) (2KW、3相)	3.5	50
	5.5	85
	8.0	120
FC-4型 (200V、21A) (3.8KW、3相)	5.5	45
	8.0	70
	14.0	120
FC-6型 (200V、29A) (6KW、3相)	5.5	35
	8.0	50
	14.0	90

第1表

遅かった関東の桜もこの日を境に咲き始めた四月八日(日)、春日部市大沼グラウンドに於いて、第十四回全三笠野球大会が行なわれた。

二日前まで続いた雨に、「こりやあグラウンドの水気をどうやって吸い取らなやだめかな」と、元談まじりに思案していた幹事連も、ほととすような青空で、その陽射しも初夏をおもわせるまじやりの強さである。

九時十五分、前年の優勝チーム、春日部を先頭に、友交の場となった。

さて、昼食後、本社先攻で、春日部の決勝戦が行なわれる。去年の雪辱を晴らすと意気込む本社は、要所所で「ア、ア、ア」を見せ、春日部は得点を「ア、ア、ア」で返す。

型 式	電 圧 (V)	出 力 (W)	定格電流(A)
40型 インヘッド	48	200	8
50型 "	"	300	13
60型 "	"	400	18
400型高周波自振モーター	48	400	14
750型 "	"	750	18
1200型 "	"	1200	26

第2表

①FC4型の周波数変換機には、50型のインヘッドが同時に三台使用出来ます。(銘板や型録に記載してあります。)

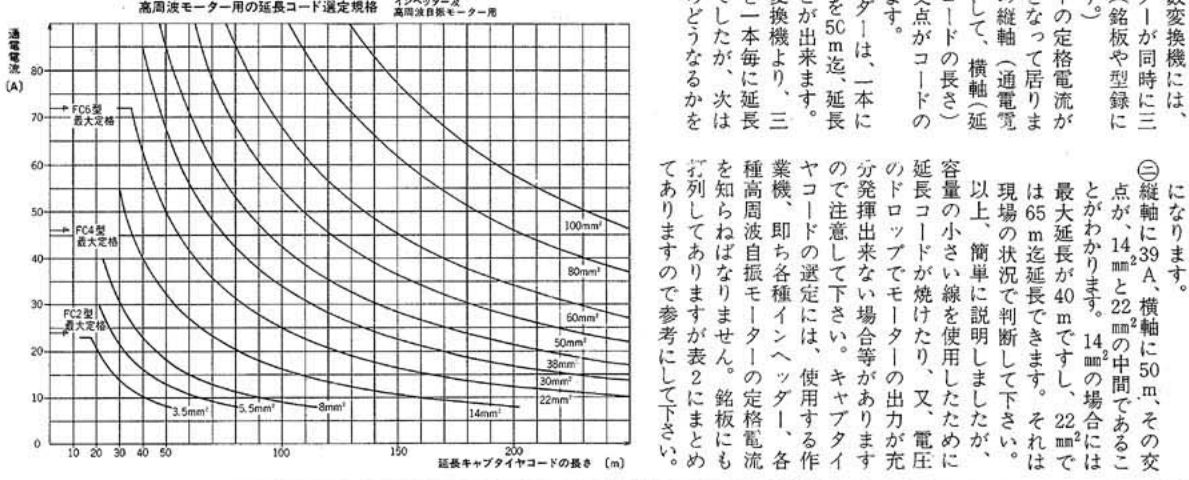
②50型インヘッドの定格電流が表2より、13Aとなつて居りますので、グラフの縦軸(通電電流)13Aを基として、横軸(延長コードの長さ)の太さ5.5mmと交点を探します。

③次に50型インヘッドは、一本につき5.5mmのコードを50m迄、延長して使用することが出来ます。前述は、周波数変換機より、三組のインヘッドを一本毎に延長して使用した場合でしたが、次は分電盤を使用した場合となるかを調べてみます。

④三本取りの場合には、MD3型分電盤を使用して下さい。

⑤周波数変換機より、分電盤までの延長コードを50m延長したい。その時のケーブルタイプとコードの太さが知りた場合は、グラフを見れば分かります。

⑥使用するインヘッドが50型で作業する本数が三本でありますから、表2の50型インヘッドの定格電流13A×3本の合計39Aの電流がケーブルタイプとコードの太さを流れること



高周波モーター用の延長コード選定規格

第14回 全三笠野球大会 春日部チーム2年連続優勝

遅かった関東の桜もこの日を境に咲き始めた四月八日(日)、春日部市大沼グラウンドに於いて、第十四回全三笠野球大会が行なわれた。

二日前まで続いた雨に、「こりやあグラウンドの水気をどうやって吸い取らなやだめかな」と、元談まじりに思案していた幹事連も、ほととすような青空で、その陽射しも初夏をおもわせるまじやりの強さである。

九時十五分、前年の優勝チーム、春日部を先頭に、友交の場となった。

さて、昼食後、本社先攻で、春日部の決勝戦が行なわれる。去年の雪辱を晴らすと意気込む本社は、要所所で「ア、ア、ア」を見せ、春日部は得点を「ア、ア、ア」で返す。

最終回の五回裏、三本リードの本社に対して、春日部の最後の攻撃がツアアウトに追いこまれてから始まった。次の打席に入った北川がセカンドゴロで出塁、続く木村、須藤も、本社の守備の乱れに乗じて次々に塁上し満塁となった。勝ったばかりに総立ちであった本社応援団も息をひそめる。その眼前で、石田、江森とツーベースを打たれみるまに、川又のセンター前ヒットで、九対八と春日部がサヨナラ勝ちをおさめたのであった。

グラウンドにとび散った爆竹、風になびく色とりどりの紙テープ、それらの戦いのなごりの中で、表彰式が行なわれた。

京谷社長から、春日部の平沢主将に優勝旗、社長杯が贈られ、応援団賞は本社に、その他数々の賞が各チームに渡された。そして平戸部長が閉会を宣言し、ここに第十四回全三笠野球大会は幕を閉じたのである。



(二年連続優勝した春日部チーム)